

(3) 地域医療構想の進捗状況と今後の見込みについて

1. 地域医療構想の経過

令和元年9月26日、厚生労働省において診療実績により再編・統合についての再検証が必要な公立・公的病院が発表され、富山県内では5つの病院がその対象となりました。今後の方向性や具体的対応方針については、地域医療構想調整会議において議論することとなっています。

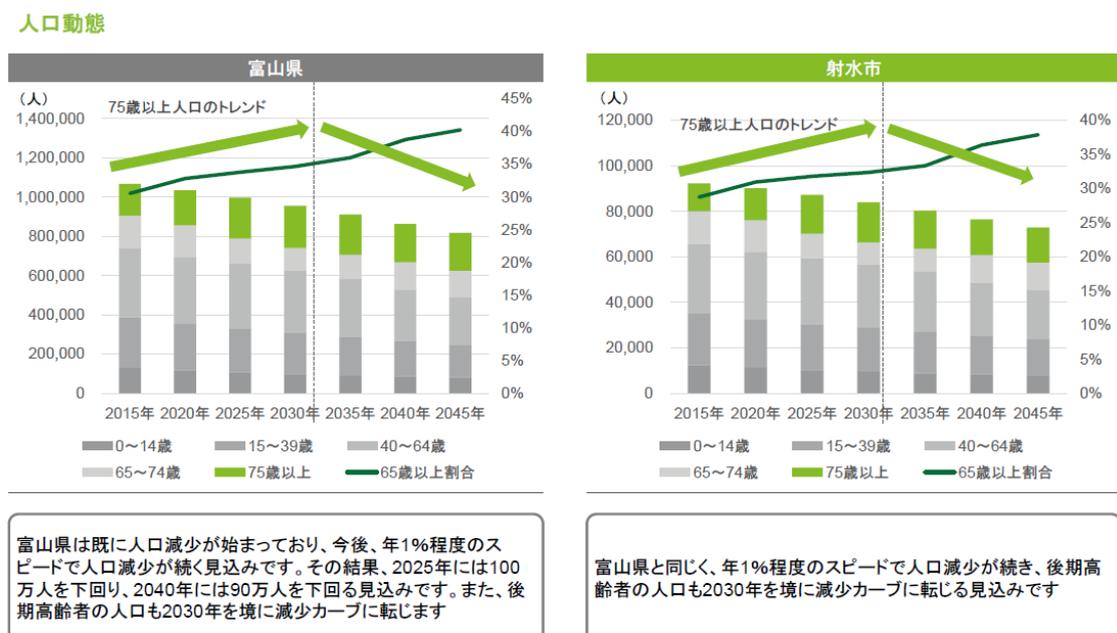
しかし、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により全国的に地域医療構想調整会議が中断となっています。また、総務省が示した新公立病院改革プラン策定のためのガイドラインについては、収支計画を含めた計画年度が令和2年度までとなっていることから、令和3年度からの新たな計画の策定が予定されていましたが、その策定についても保留となっています。今後新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ地域医療構想調整会議の再開や、新たな計画策定の時期についても厚生労働省が判断し通知することとなっています。

2. 射水市民病院の置かれている環境要因について

当院の状況としましては、平成28年度から4年連続で病床稼働率が70%を下回る状況が続いており、新型コロナウイルス感染症拡大を受けてより経営状況が悪化するものと考えられます。また、ここ数年においては医師の異動や減少も稼働率低迷のひとつの要因となっており、医師確保に向けて強く働きかけを行っています。

① 県内の人口動態

富山県、射水市ともに人口減少が既に始まっています。後期高齢者の人口は2030年を境に減少カーブに転じる見込みです



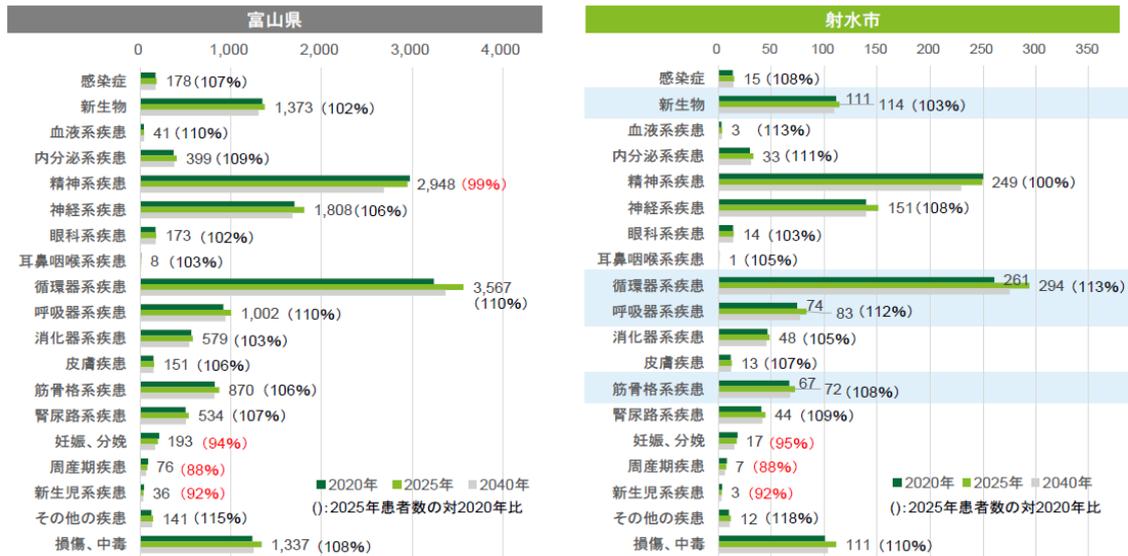
県内及び市内の人口動態ですが、富山県、射水市ともに既に人口減少が始まっており、年1%程度で減少傾向にあります。その中で後期高齢者人口は2030年を境に減少に転じる見込みとな

っています。

② 射水市の患者状況

2020年から2025年の間で射水市において、循環器系疾患は33人、筋骨格系疾患5人、呼吸器系疾患は9人程度の増加見通しであり、大幅な増加は見込めません

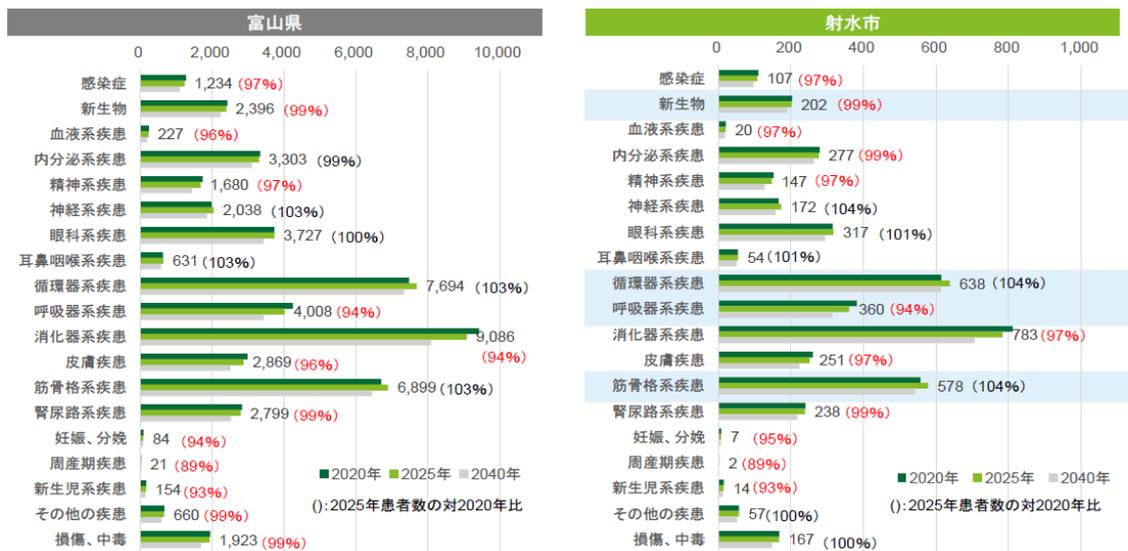
疾病別入院患者数推計



出所: 社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」、厚生労働省「患者調査」より作成

外来需要は2020年から2025年にかけて循環器系疾患、筋骨格系疾患など増加する疾患がある一方、減少する疾患もあります。入院と同じく大幅な増加は見込めません

疾病別外来患者数推計



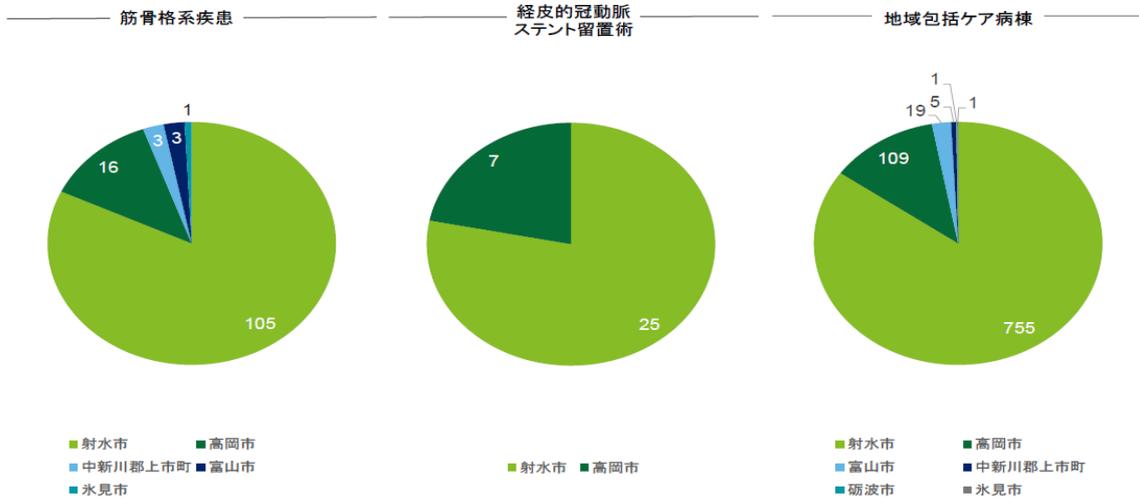
出所: 社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」、厚生労働省「患者調査」より作成

射水市の患者動向について疾患別の推移をみると、入院、外来ともに一部増加見込みの疾患はあるものの大幅な増加は見込まれません。また、高岡医療圏および隣接する富山医療圏全体の平均在院日数が短縮傾向にあることから、地域の入院患者数は予測以上に減少する可能性があります。

③ 射水市民病院の住所別患者状況

射水市民病院の入院患者は、急性期病棟の主要疾患患者および地域包括ケア病棟の患者を見ると、いずれも射水市在住患者が8割を占めています

入院患者 住所別患者数(2018年11月～2019年10月)



当院の入院患者は、主要疾患や地域包括ケア病棟入院状況をもみても、その8割以上が射水市在住患者となっています。射水市はもとより高岡医療圏、富山医療圏ともに人口減少並びに患者数の減少が見込まれる中、このままでは病床の需要動向を分析したうえで病床削減も視野に入れて検討していく必要があるものと考えます。

④ 射水市民病院の近隣(10km圏内)における病院の状況

射水市民病院の近隣(10km圏内)における病院の状況



出所:厚生労働省「平成30年度病床機能報告」より作成

射水市には急性期病床を持つ病院は2つしかなく、射水市在住患者が近隣病院に流出していると考えられることから、増加が見込まれる循環器系疾患や筋骨格系疾患を当院の特色として強くPRし、患者確保ができれば経営改善に繋がる可能性があります。